

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372601031
法人名	医療法人社団 かとれあ会
事業所名	グループホーム かとれあ会
訪問調査日	平成 20年 1月 31日
評価確定日	平成 20年 2月 12日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 2 月 12 日

【評価実施概要】

事業所番号	4372601031		
法人名	医療法人社団かとれあ会		
事業所名	グループホームかとれあ会		
所在地	合志市栄2325-1 (電話) 096-247-2820		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番19号402号		
訪問調査日	平成 20年 1月 31日	評価確定日	平成 20年 2月 12日

【情報提供票より】(平成20年 1月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 11 人, 非常勤 7人, 常勤換算	11.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	39,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.22 歳	最低 66 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団直心会 森の里クリニック、 さかえ歯科クリニック	国立療養所 菊池病院、
---------	-----------------------------------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>温泉団地の中にあるホームはハード面や防犯上から不利な点があるものの、ソフト面で補うことで地域密着型サービスが提供されているといえる。入居者からお茶の接待を受けることができ、個別の能力を活かす取り組みも感じられる。職員は入居者のペースとプライドを尊重し、見守る支援を徹底させている。職員の介護技術にも申し分が無く、入居者と家族にとって安心した暮らしの環境が提供されている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>花壇づくりや、手づくりの門松など季節感に配慮した環境整備に努めた結果、親しみやすさが感じられる。また植木の剪定をすることで、ホームが外部から見えやすいようにも配慮している。金銭管理支援については、入居者の状況や家族との相談の結果、ホームでの管理とし、外出時での支払い支援を行う事としている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全てが自己評価や外部評価の意義や目的を理解しており、全員で自己評価を行った。その結果から改善課題を抽出し、具体的な計画をたてて取り組みを行なっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では入居者の状況報告や行事計画・その報告等を行い、意見交換をしている。地区の総会を隣接する遊休施設を開放するなど、地域貢献や交流が図りやすい状況になってきている。今後はホームの行事参加依頼やボランティア募集などとおし、運営にも積極的な関与が期待できる協体制度が望まれる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>「かとれあ会便り」の送付や面会時の報告などで、共通の話題を提供し、希望や意見を出しやすい雰囲気づくりに配慮している。担当者会議には家族にも出席してもらい、意見を求めるようにしている。今後は家族中心の行事を企画することで、家族同士のネットワークを支援することも望まれる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>建物構造上、隣接住宅がなく孤立しているようにも思われるが、運営推進会議の協力で徐々にグループホームの存在が認知されるようになってきた。ホームの遊休施設を開放しながら徐々に地域との交流が図られ、外出の機会が少ない入居者への楽しみ事支援につなげられることが期待される。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当時から職員間の話し合いによってまとめた理念を、目につきやすい場所に掲示している。		地域密着型施設として、理念の検討が期待されます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議や勉強会の際に、事務長より理念に基づくケアの方向性について話があり、職員も理念に沿ったケアを心がけている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの外回りの掃除や犬の散歩の時に、地域の方にも挨拶をしたり、地区の総会や夏祭り・コンサート等には遊休施設を利用してもらって地域の人との交流に努めている。		遊休施設を活用した交流行事には入居者の参加も期待されます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事務長や管理者によって、自己評価や外部評価の意義や目的を職員に伝え、ユニット毎に取り組み、具体的な改善項目もあがってきており、ケアの質の向上にも努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではグループホームの説明や利用者の状況報告・行事案内を行っている。会議で出された意見は、サービスの中で活かす努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当窓口を訪問し、ホームの行事案内や情報交換に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には状況報告、毎月のお便りではホームの活動報告を行なうようにしている。必要に応じて電話連絡も行なっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には食事にもお誘いし、話しやすい雰囲気づくりに努めている。家族会での意見は、すぐに対処するようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力抑え、離職や新採の場合も、馴染んでもらうための配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に応じて外部研修を受ける機会を設け、ホーム内の勉強会では報告や資料の回覧をして共有できるようにしている。資格取得に向けても積極的であり、職員育成の取り組みも行なわれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的なブロック会議には管理者や職員が出席し、研修や情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に自宅を訪問し情報を把握している。見学にも対応し、おやつと一緒に摂ってもらうなど馴染みの関係づくりへの工夫がされている。入居時は特に家族の協力も得ている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活暦を把握し、それぞれの入居者が能力を発揮できる場面づくりを行うよう心がけている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者との会話やかかわりの中から、希望や意向を把握するよう努めている。意思表示が困難な入居者には、表情から読み取るようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者や家族の要望を反映させながら介護計画を作成している。半年ごとに担当職員によるアセスメントを実施し、毎月のミーティングで課題やケアの検討を行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>半年毎、また入居者の状況変化があった時にも見直しを行い、家族に説明をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的な通院の同行支援をしている。また家族が訪問した際、入居者と心地よく過ごすことができるよう、お茶や食事を勧めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族が希望するかかりつけ医を尊重し、家族による通院同行を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の要望があれば終末期も対応するため、その際のマニュアルは準備されている。終末期に向けたホームの方針を現在作成中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重した言葉かけを行い、個人情報や写真の掲載についても家族の了解を得て行っている。個人の記録は事務所で保管しており、取り扱いについても慎重に行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課や流れはあるものの、入居者のペースを第一に配慮した支援を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はユニット毎に入居者の希望を取り入れながら作成し、買物や調理・配膳・後片付けも、入居者の状況に応じて声かけしながら一緒に行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に沿った入浴支援を行なっている。入浴拒否の方にもゆず湯等で工夫し、声かけにも配慮しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事・洗濯物たたみ・掃除・調理・動物の世話など、役割として能力発揮の場面づくりを行なっている。歌・ぬり絵・外出支援などで、楽しみ事にも工夫している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ユニット間の往来やクリニック受診・買い物などの支援をしている。		社会的資源を活用した外出や地域行事への参加などで、気軽に外出できる体制の整備が望まれます。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	研修等で鍵をかけることの弊害を理解しているものの、防犯上から玄関には鍵をかけている。畑に出る裏口は施錠しておらず、入居者の出入りを自由にできるようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練を実施している。また、運営推進会議を通じて地域の方への協力を呼びかも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状況に応じて刻み食を準備し、摂取量もチェックして職員が把握できるようにしている。水分量についても一日の目安を決め補給するように、入居者の好きな飲み物をすすめるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	パッチワークや押し花額などが上品に飾られ、家族からの絵手紙なども訪れた人の目を楽しませている。花木で季節感を演出している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、箆笥・椅子・テーブルなどが運び込まれ、一人ひとりに合った居室づくりの支援がされている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人社団 かとれあ会 グループホームかとれあ会
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	合志市 栄 2325-1
記入者名 (管理者)	西村久幸
記入日	平成 19年 1月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		その人らしく、その人の今に寄り添えるよう心掛け、行事等を通じて地域の人々に一人でも多く利用者、職員が接する機会を持ち認知症ケアを地域に広めていくことで利用者やグループホームが地域の中で理解され活動しやすくなるよう努力していきたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		常に、理念を唱えるだけにならないよう、理念の考え方に基づいたケアが出来ているか、ケア内容に添った理念とは何か、スタッフの考え方実践力を月1回の全体会議や毎週行っている勉強会で益々深めていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		利用者が地域の中で暮らしていく事を支えていくためには当事業所のみならず家族、地域の事業所全体の協力も必要である。地域へはグループホームにて空いているスペースを会議等に使用していただき、認知症ケアの悩み相談などあれば受け、共に支え合っていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		イベントで餅つきを行った際、となりの方にお裾分けをしたら大変喜ばれ、畑で出来たネギを翌日持ってこられた。今後もこのようなコミュニケーションは継続していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		ボランティアによるハーモニカ演奏、中学生のコーラス部による慰問の受入や、遊休施設を区の総会に利用してもらったりしている。グループホームが道路より離れた2階・3階にあり、しかも1階のクリニックは休診中、敷地は広いなど構造上の弱みがある。そこで今後は広い畑や遊休施設の利用など地域の方と交流する企画を考案していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生員の方から申し出があれば地域のいきいきサロン等に場所の提供している。		運営推進委員会などで地域のお年寄りの情報を聞き、認知症の利用者の介護により習得した知識技能を在宅の方々と一緒になって考える機会を今後設けて生きたいと思えます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の後、職員で話し合い、アドバイス事項に対応している。客観的な評価を受けることにより自分たちのケアを振り返ったり反省したりの良い機会となっている。又今回もサービス評価の意義や目的を伝え職員全員で取り組めた。		今後もサービス評価の意義・意味を勉強会にて定期的項目毎に取り上げ職員の高質の向上をはかりたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の情報提供や、外部評価の結果報告改善案などを伝えている。重要事項説明書も公開しかとれあ会のサービスについて説明している。運営推進委員の方々に認知症・グループホームを理解していただき地域に伝える窓口となっただくことで地域の方々にも理解していただけるよう努めている		会議の中で地区の公民館がない為に、総会の場所に困っている事を聞いて遊休施設の利用に繋がったりあるいはメンバーの方のグループと一緒に芋掘り、ピクニックの企画をしたり施設に対するアドバイスをいただいたりし今後も窓口になっていただいている委員の方に共に支え合う関係作りを働きかけ取り組んでいきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	春のファミリーコンサート・夏祭り・冬の収穫祭と企画、招待してきたこともあり市町村とグループホームの距離感が縮まった。細めに市町村窓口を訪れ情報交換に努めている。		かとれあ3大イベント(コンサート・夏祭り・収穫祭)などを通じ密接に交流し心通う関係作りに努めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在適用者はいないが、権利擁護や成年後見制度については勉強会で取り上げ学習しているがまだまだ十分とは言えないため今後も定期的に取り上げ職員の高質の向上に努めたい		まだなじみのないことなので地域のかたを交え施設を利用し地域の専門家などを招き、市町村と連携を図り勉強会を開催したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に添って支援し、理念を徹底すると共に職員の高質の軽減に努めるためストレス解消法を勉強会で取り上げたり対策ビデオを見たりしている。テレビやニュース新聞で虐待の事例があるときは、勉強会で取り上げ自分たちのケアを振り返る機会にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に見学していただき食事やおやつ、実際の雰囲気など十分納得していただき(アルバム等見ていただいたりして)十分な説明をしている。利用者本人にも見ていただき家族、利用者共に納得していただき契約を結んでいる。</p>	<p>重度化や看取りについては今後個々の家族ときめ細かい話し合いをし同意書(文書化)を取るなどして対応していききたい</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者のケアに関する苦情はその場で解決し、担当者会議などを利用し家族の意見や思いを聞き出し利用者家族の安心につなげている。</p>	<p>利用者の態度、言葉から気持を察し、利用者本位の運営を心掛け継続して行きたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月1回発行のかとれあ便りにて生活の様子を写真、文章にて報告している。面会時には近況報告を必ず行い必要時には電話等にて家族に報告している。スタッフの移動も随時報告している。金銭管理についてはパソコンに入力し領収書貼り付け不定期に家族に報告している。</p>	<p>毎月に1回便りを発行しているので継続していききたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者が苦情受け付け窓口になっているが、職員全員に気軽に言える雰囲気作りに努めている。公的窓口の紹介は必要に応じて行っている。運営推進会議や家族会の交流の場や玄関入口にアンケート用紙入れを設置している</p>	<p>利用者・意見・不満・苦情などを気軽に伝えられる雰囲気作りに努め改善に努めて生きたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営・経営に関しての報告は事務長より職員に行っている。月1回の会議、ミーティングで職員の意見を聞き、可能な限り要望に添うように心掛けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>イベント時にはスタッフを厚く、遅出を付けたり、利用者の状態に合わせたユニット間の応援態勢を密にしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者の変更は1回のみである。基本的に職員の異動はない。離職がある場合もその時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。入職者においても利用者నికిきちんと説明し、先輩である利用者からホームのことをきちんと教えて貰う工夫をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎週の勉強会をはじめ、新人研修やブロック研修をスタッフのレベルに応じて選択し、レベルアップに繋げている。実践者研修、実践リーダー研修などは、有資格者に積極的に受講できる様に心がけている。	
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回のブロック研修会に積極的に参加し情報交換や他事業所の困難事例に対して意見交換などを行って、質の向上に努めている。	
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労、ストレスや要因について気を配り勤務時間中にも気分転換できる休憩室を確保したり職員同士の間人間関係を把握するよう努めている。	ストレスについてのアンケートを取ったので今後のストレス解消に向けて利用し、職員のストレス解消に役立てたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	随時面接を行い相談を受けている。職員が向上心を持ち仕事が出来るように又個々の職員の努力を公平に評価する環境作りに努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時に家族より聞き取りした生活歴をふまえ本人の訴えなどを尊重し本人の今に添った介護をしている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約後に、ご家族のこれまでの経緯について時間をかけ傾聴し、ご家族と本人を共に支えられるよう心掛けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談ケースに応じて包括支援センターや他事業所や他のサービスを紹介している。		必要に応じて他のサービス利用をスムーズに図れるよう他のサービス機関と連携していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と面談し、顔なじみの関係を作るようしている。入居時は本人の混乱が少ないように家族の面会を多くしスタッフが安心感をもっていただくように心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴や家族の方の情報をもとにこだわりや、不安に思われることを知り今に添って時間を共有し共に支え合う関係を心掛けている。		一人一人の今に添ったケアを継続していきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えることの協力関係が築けることが多くなってきている。イベント、行事の際は必ず声を掛けるようにしている。		すべての家族に思いが伝わり共に支えていけるように努力したい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪時は本人とご家族の潤滑油になるよう職員は心掛けている。		来訪時にはできるだけ長い時間過ごしていただくために一緒に食事していただいたり行事参加を誘っているが、家族と共に外出・外泊して過ごされることによって思い出作りをされるなど家族の支援も心掛けていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や、自宅に外出する機会を持つように心がけている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係は、相性が良かったり悪かったりと様々である。難聴の利用者に他の利用者が話しかけているときは耳が遠いこと説明し職員が間に入ることもある。利用者職員が接する事だけが多くならないよう利用者同士の会話、コミュニケーションが円滑に進む支援を心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	この1年間は退去者はないが、入院や亡くなったときは訪問したり電話で連絡する事は継続していきたい。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望がある方にはできるだけ自宅に同行し安心していただいている。強引な家事参加を促さず利用者本位に対応している。意思の伝達が困難な方は日々の表情や様子などを観察し判断している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との会話の中から生活歴を収集出来るように会話するよう心掛けている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の生活リズムに合わせてスタッフ全員でアセスメントをし、出来ることに着目し本人が安心して暮らす事が出来るように場面作りに心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	随時ミーティングにて課題に対して検討行っている。しかし遠距離の家族様からは十分な要望や意見が聞けていない。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に随時担当者会議やフロアミーティングで見直しが出来ている。		今後は随時プランの見直しをし、変更していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	デューリー記録・業務日誌・申し送りノートを職員は記録、実践している、状態変化や、注意が必要な時は口頭での申し送りの他、記述を行っている。またそれらの記録をもとに介護計画の見直しなど実施している。		記録の仕方をスタッフが分かりやすく、実践に活かせるように今後も検討していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が何時来られても、利用者と気持ちよく安心して過ごしていただくためにお茶や食事を勤めるよにしている。又、帰宅願望が強いときは出来るだけ同行し落ち着いていただくよにしている。		年々ホームへの家族の面会が増えてきているので来られた家族が心地よく過ごせる雰囲気作りを今後も心掛け継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の消防訓練・運営推進委員会イベント時の声かけで参加を促している。地元中学生の定期的な演奏や、地元のハーモニカ奏者の方、夏祭りの際は地域の方の出し物などボランティアの協力受け入れに力を入れている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要時、情報交換や相談を行ない、ブロック研修(他グループホームとの勉強会)で事例検討や学習会を行っている。		他のサービス利用に関しては必要性があれば応じて行くように心掛けたい
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在対象者がいないので対象者があれば地域包括支援センターへ相談していきたい。		市に相談し今後運営推進会議にも包括支援センターの専門職の方にも参加していただくよう声かけを行なっていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されるかかりつけ医は継続されている。受診の際は家族にて送迎を行ってもらっており、家族からの要望があれば同伴等の対応をしている。お互いにその時、情報交換している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個々のかかりつけ医に必要時に応じ随時、相談、助言をいただくようにしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当事業所にも看護師が職員として在籍しており、協力医療機関である森の里クリニックの看護師が定期的にホームを来所することにより、連絡を密にし、緊急時に対応出来るようにしている。		健康管理や、受診情報を家族に伝えていけるよう努めていきたい
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ここ1年はないが過去にそういう場合は本人が安心されるよう面会等行い早期退院に関しては、主治医、家族と連携を取り対応した。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアに関しては家族から要望があれば受け入れるようにしているが具体的な検討は今はない。		重度化に伴う医師作成書を作成しホームが出来る内容を明記し家族と相談していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期については、機会があるごとに家族にお話している、勉強会や専門書にて学びを深めるように心掛けている。また急変時は速やかな対応が出来るように主治医と連絡を取っている。		職員が安心して終末期の対応が出来るようにその場に応じた勉強会を行っていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在対象者は居ないが対象者がいれば情報公開など連絡を密に取っていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉遣いに気をつけ、本人との関係、場面、反応によってその時に応じたこえかけをするようにしている。ホーム便りなどで写真を掲載していることは了解を得ている。個人情報を記載した文書は持ち帰らないなど慎重な取り扱いを心がけている。</p>	<p>今後シュレッダーの購入も検討していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>食事やおやつの際は、食べたいものを利用者に聞いている。自分の意志が伝わりにくい人にはそういう場面作りを心掛けている。一番風呂にこだわりを持つ利用者には出来るだけその思いに添っている。しかし共同生活なので時と場合においては順番が後になることを説明し、納得いただくようにしている。</p>	<p>今後も利用者の出来ること出来ないことを見極め本人のペースに合わせた支援を心掛けていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方せずその時に応じた支援を心掛けている。その人らしい暮らしが営めるように利用者に合わせて支援を行っている。外出希望等あればなるべく早く対応するように心掛けている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>出来る人には衣服の選択をしてもらい、出来ない人にはその場に応じた衣服の選択を職員でしている。理容に関して行きつけがある方は家族が同伴され、そうでないかたは家族や利用者の希望で移動美容室をご利用いただいている。</p>	<p>そのひとらしい生活とは何なのか勉強会や事例など通じて学びを深めていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>面会時に家族様に食事を勧め一緒に食べていただいたり、肉嫌いの方は魚を提供し、望まれる方は個別に嗜好品の提供している。利用者の能力に合わせた材料選び、配膳、皮むき、盛り付け、後片付けなどおこなってもらっている。ホームには菜園があり食材となっている。食事が1日の活力の源になるような支援を心掛けている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>望まれる利用者には要望に応じた物を提供するよう心掛けている。可能なときは一緒に買い物にも出かけるよう心掛けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンはチェックシート記入することで確認できるようになった。全介助の1名について日中は布パンツにパットをあて対応し、紙パンツ使用の1名は夏場は布パンツにパットをあて対応している。その他の方は終日、布パンツ使用されている。排泄パターンから声かけ行い失敗がないよう心掛け支援している。(2名パット併用)		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している	場面作りを心掛け、楽しめる場面作りを行ないなるべく楽しめるように心がけている。(ゆず湯等)入浴の際、(温泉へ行きましょう・お湯があふれてもったいない・一番風呂ですよ等)声かけを工夫するよう心掛けている。一番風呂にこだわりある方おられ極力希望に添っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の希望や体調に合わせて日中でも各居室で横になることが出来る。就寝時間を決めずその人の希望に添うよう心がけている。共有スペースには休めるようにソファ・椅子を配置している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮していただくために、お願いできそうな仕事を促し感謝の言葉「ありがとうございます」と必ず声掛する様に心がけている。花の水やり、買い物、食材の皮むき、だご汁作り、ぬり絵などしていただくことで張り合いのある一日となるように心がけている。また場面を変えるため気晴らしに畑や洗濯物干しにお誘いするよう支援している		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前外部評価でアドバイスを受け、直ぐに試みたがご家族、利用者の希望がないため支援していない。外出などの際は、職員が代行し支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回は協力医療機関のクリニックへ全員出かけている。その他に行事等で月に一回は戸外に出られるようするよう支援に努めている。季節、気候に応じて外出支援に心掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行楽地(猿回し劇場や・動物園・菖蒲見学・植木市・コスモス見学・ココファーム等)出来る限り思いで作りが出来るよう外出支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合は家族と直接話して貰うなどの支援をしている。手紙や葉書などは混乱されないよう工夫し、力が発揮できるよう支援するよう心掛けている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも訪問可能である、訪問時はお茶、食事を提供している。他の利用者に気兼ねなく過ごしていただくため居室を使っていたり、家族より希望あれば家事参加もしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常介護の中で身体拘束については理解を深めるように努力している。言葉による否定的な対応も、スタッフ間でその都度注意するよう心がけている。		今後も安全と拘束の観点から理解を深めるように勉強会を行ない意識向上に努めていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に玄関以外は鍵を掛けない。(外部進入を防ぐため)異食行為がある可能性がある方の部屋には異食の可能性のある物を置かないよう心掛けている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定時に利用者の所在は把握している。チェックシートに所在、様子の記入を行なって活用している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食行為のある可能性がある方の部屋には飴や異食に繋がる物を置かないよう心掛けている。経口摂取などで害がある物は目に付かない場所に収納している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐための対応策を講じてきた。(ガスコンロロック確認・衣類チェックシート・服薬確認シート等)週1回の勉強会でヒヤリハット・事故報告などの事例発表し職員で原因・対応策など検討している。またグループ内にリスク委員会があり定時に報告、情報を共有し知識を深め事故予防に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署に依頼して(防火訓練の際)応急手当、初期対応の指導を受けた。グループ内で誤薬、嚥下障害、転倒、離脱など事例発生時に対応策を検討し情報を共有するようにしている。各フロアーには緊急時対応マニュアルがあり何時でも見れるようにしている。		定期の防火訓練の際には救命救急法などの訓練は継続して受けるようにしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に依頼して(防火訓練の際)応急手当、初期対応の指導を受けた。施設が2階、3階にあり火災が一番恐れるところで火元の管理には細心の注意をしている。		運営推進委員会などを利用し、今後、地域の方に災害時協力していただけるよう働きかけていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時など具体的に説明し理解を求めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者の普段の状況を把握している。バイタルチェックを毎日行い体調変化の際はクリニックドクターに連絡し指示をもらっている。場合によっては家族に連絡、相談し受診に繋げている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人服薬明細を各フロアーに配置しており個人の服薬内容が確認出来るようになっている。服薬の際には、手渡しし確実な服薬を確認している。薬の変更や追加がある場合は家族に報告し、本人状態変化がある場合は記録し協力医療機関のクリニック看護師と連携を図っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ乳製品や食材を取り入れ工夫して提供している(牛乳・ヨーグルト・プルーン等)、家事参加などで身体を動かす機会を適度に設けるよう心掛けている(徘徊なども運動と捉えている)利用者によっては腹部マッサージなど施行。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	こまめな口腔清拭が出来ないため食事のあとの水分補給に努めている。今後昼間の口腔ケアを徹底していきたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の摂取量はチェックシートに記録している。利用者が好きな飲み物を勧め、水分補給に努められるよう支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内のグループホームに健康委員会を設けており早期に連絡を取り合っている。又各ユニットにマニュアルを設置している。勉強会で感染症予防対策の勉強に取り組んでいる。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い置きをせずこまめな買い物を心掛けている。手洗いの励行・乾燥機の使用・フキンまな板などはハイターで除菌、清潔を心掛けている。冷蔵庫内の鮮度チェックや肉・魚類はすぐ冷凍するよう心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外部評価でアドバイスを受け、直ぐに母子会の協力を得て玄関横の花壇に花を植え、玄関先にプランターを置いた。玄関内は季節感のある工夫を心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者家族から頂いた花や利用者に摘んでもらった裏庭に咲く花を食卓・リビングに飾るようにしている。窓からは遠くの景色が一望でき、山肌に沈む夕陽やリビングの季節の花、ベランダに置いた観葉植物、夏場の窓から入ってくる微風にささやかながら五感で季節を感じてもらっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの前、トイレの前にソファを置き一人になれる場所を作っている。他の利用者からはなれて過ごされる場所にもなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が主になって居室作りされている。混乱や危険防止の必要がある場合は家族と相談し工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	感染症予防の上からも十分な換気を行い温度調節にも心掛けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの工夫、庭や畑に通じるスロープの設置。利用者に合わせて物干し竿の高さにしたり干しやすい工夫をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立した生活が出来るよう場面作りに工夫して混乱や失敗を防ぐように支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑には季節の野菜を植え、利用者が家族や職員と野菜収穫したり、外の景色や空気を何時でも楽しめるように椅子やテーブルを庭に設置している。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の今を考慮し家族の中で生活していける姿勢を持っている。
 地域のかたや家族と共に入居者を見守り交流を図っている。
 本人の持っている力を最大限に活かせる様な支援をするようにしている。
 食事作りやおやつは手作りの温かい物を提供できるよう心掛けている。
 自力で歩行(車椅子・バギー車一部使用)の方が殆ど。外出も皆で出かけている。
 家族とのコミュニケーションは良くできている。
 家族の面会時は挨拶を忘れず。お茶を提供し、笑顔で接する様に心掛けている。
 年度末に事業所としてスローガン(目標)を決めそれに向かって取り組んでいる。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人社団 かとれあ会 グループホームかとれあ会
(ユニット名)	3階
所在地 (県・市町村名)	合志市 栄 2325-1
記入者名 (管理者)	碓井紀子
記入日	平成 19年 1月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくために、帰宅願望の強い方は自宅まで帰って時間過ごしたり、家族様が何時でも来れるような雰囲気環境作りに努めている。理念の一部に「利用者の今の思いを大切に」とあり、職員も利用者、ご家族に添うようにし心掛けている。		その人らしく、その人の今に寄り添えるよう心掛け、行事等を通じて地域の人々に一人でも多く利用者、職員が接する機会を持ち家族と共にケアを地域に広めていくことで利用者やグループホームが地域の中で理解され活動しやすくなるよう努力していきたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、理念が反映される様にスタッフ全員へ会議(月1回の全体会議やフロアーミーティング、週1回の勉強会)全職員の参加を呼びかけ、再確認と理念に基づき実践できるよう心掛けている。ミーティングにおいては一人一人のプランに添って具体的なケアについて意見の統一を図っている。		常に、理念を唱えるだけにならないよう、理念の考え方に基づいたケアが出来ているか、ケア内容に添った理念とは何か、スタッフの考え方実践力を月1回の全体会議や毎週行っている勉強会で益々深めていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時には家族に理念が記されたパンフレットを渡している。又ユニット入口に理念を掲示している。家族には利用者の暮らしや行事参加の様子を掲載したホーム便りを毎月配布したり、理念に基づいた年度目標をきめ家族会の際には報告し理解していただくよう努めている。地域には運営推進会議、夏祭り、コンサート等折りに触れ伝えている。		利用者が地域の中で暮らしていく事を支えていくためには当事業所のみならず家族、地域の事業所全体の協力も必要である。地域へはグループホームにて空いているスペースを会議等に使用していただき、認知症ケアの悩み相談などあれば受け、共に支え合っていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出来るだけ近隣の方々と普段より接する機会を心掛け、イベント時には声をかけるようにしている。事務長が外回りの掃除を、職員がホームで飼っている犬の散歩を日課としているため近所の方とお会いした際は挨拶等のコミュニケーションを図り、顔見知りになるよう心掛けている。		イベントで餅つきを行った際、となりの方にお裾分けをしたら大変喜ばれ、畑で出来たネギを翌日持ってこられた。今後もこの様なコミュニケーションは継続していきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	孤立してしまわないよう母子会の方、民生委員、区長さんにアドバイスを受け地元の人々と交流するよう努めている(夏祭り・ミニコンサート等イベント行事等)		ボランティアによるハーモニカ演奏、中学生のコーラス部による慰問の受入や、遊休施設を区の総会に利用してもらったりしている。グループホームが道路より離れた2階・3階にあり、しかも1階のクリニックは休診中、敷地は広いなど構造上の弱みがある。そこで今後は広い畑や遊休施設の利用など地域の方と交流する企画を考案していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	民生員の方から申し出があれば地域のいきいきサロン等に場所の提供している。		運営推進委員会などで地域のお年寄りの情報を聞き、認知症の利用者の介護により習得した知識技能を在宅の方々と一緒に考えて考える機会を今後設けて生きたいと思っています。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の後、職員で話し合い、アドバイス事項に対応している。客観的な評価を受けることにより自分たちのケアを振り返ったり反省したりの良い機会となっている。又今回もサービス評価の意義や目的を伝え職員全員で取り組めた。		今後もサービス評価の意義・意味を勉強会にて定期的項目毎に取り上げ職員の質の向上をはかりたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の情報提供や、外部評価の結果報告改善案などを伝えている。重要事項説明書も公開しかとれあ会のサービスについて説明している。運営推進委員の方々に認知症・グループホームを理解していただき地域に伝える窓口となっていただくことで地域の方々にも理解していただけるよう努めている		会議の中で地区の公民館がない為に、総会の場所に困っている事を聞いて遊休施設の利用に繋がったりあるいはメンバーの方のグループと一緒に芋掘り、ピクニックの企画をしたり施設に対するアドバイスをいただいたり今後も窓口になっていただいている委員の方に共に支え合う関係作りを働きかけ取り組んでいきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	春のファミリーコンサート・夏祭り・冬の収穫祭と企画、招待してきたこともあり市町村とグループホームの距離感が縮まった。細めに市町村窓口を訪れ情報交換に努めている。		かとれあ3大イベント(コンサート・夏祭り・収穫祭)などを通じ密接に交流し心通う関係作りに努めたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在適用者はいないが、権利擁護や成年後見制度については勉強会で取り上げ学習しているがまだまだ十分とは言えないため今後も定期的に取り上げ職員の知識・理解の向上に努めたい		まだなじみのないことなので地域の方を交え施設を利用し地域の専門家などを招き、市町村と連携を図り勉強会を開催したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に添って支援し、理念を徹底すると共に職員のストレス軽減に努めるためストレス解消法を勉強会で取り上げたり対策ビデオを見たりしている。テレビやニュース新聞で虐待の事例があるときは、勉強会で取り上げ自分たちのケアを振り返る機会にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に見学していただき食事やおやつ、実際の雰囲気など十分納得していただき(アルバム等見ていただいたりして)十分な説明をしている。利用者本人にも見ていただき家族、利用者共に納得していただき契約を結んでいる。</p>	<p>重度化や看取りについては今後個々の家族ときめ細かい話し合いをし同意書(文書化)を取るなどして対応していきたい</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者のケアに関する苦情はその場で解決し、担当者会議などを利用し家族の意見や思いを聞き出し利用者家族の安心につなげている。</p>	<p>利用者の態度、言葉から気持を察し、利用者本位の運営を心掛け継続して行きたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回発行のかとれあ便りにて生活の様子を写真、文章にて報告している。面会時には近況報告を必ず行い必要時には電話等にて家族に報告している。スタッフの移動も随時報告している。金銭管理についてはパソコンに入力し領収書貼り付け不定期に家族に報告している。</p>	<p>毎月1回便りを発行しているので継続していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者が苦情受け付け窓口になっているが、職員全員に気軽に言える雰囲気作りに努めている。公的窓口の紹介は必要に応じて行っている。運営推進会議や家族会の交流の場や玄関入口にアンケート用紙入れを設置している</p>	<p>利用者・意見・不満・苦情などを気軽に伝えられる雰囲気作りに努め改善に努めて生きたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営・経営に関しての報告は事務長より職員に行っている。月1回の会議、ミーティングで職員の意見を聞き、可能な限り要望に添うように心掛けている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>イベント時にはスタッフを厚く、遅出を付けたり、利用者の状態に合わせたユニット間の応援態勢を密にしている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者の変更は1回のみである。基本的に職員の異動はない。離職がある場合もその時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。入職者においても利用者きちんと説明し、先輩である利用者からホームのことをきちんと教えて貰う工夫をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎週の勉強会をはじめ、新人研修やブロック研修をスタッフのレベルに応じて選択し、レベルアップに繋げている。実践者研修、実践リーダー研修などは、有資格者に積極的に受講できる様に心がけている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回のブロック研修会に積極的に参加し情報交換や他事業所の困難事例に対して意見交換などを行って、質の向上に努めている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労、ストレスや要因について気を配り勤務時間中にも気分転換できる休憩室を確保したり職員同士の人間関係を把握するよう努めている。		ストレスについてのアンケートを取ったので今後のストレス解消に向けて利用し、職員のストレス解消に役立てたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	随時面接を行い相談を受けている。職員が向上心を持ち仕事ができるように又個々の職員の努力を公平に評価する環境作りに努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時に家族より聞き取りした生活歴をふまえ本人の訴えなどを尊重し本人の今に添った介護をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約後に、ご家族のこれまでの経緯について時間をかけ傾聴し、ご家族と本人を共に支えられるよう心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談ケースに応じて包括支援センターや他事業所や他のサービスを紹介している。		必要に応じて他のサービス利用をスムーズに図れるよう他のサービス機関と連携していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と面談し、顔なじみの関係を作るようにしている。入居時は本人の混乱が少ないように家族の面会を多くしスタッフが安心感をもっていただくように心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴や家族の方の情報をもとにこだわりや、不安に思われることを知り今に添って時間を共有し共に支え合う関係作りを心掛けている。		一人一人の今に添ったケアを継続していきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えることの協力関係が築けることが多くなってきている。イベント、行事の際は必ず声を掛けるようにしている。		すべての家族に思いが伝わり共に支えていけるように努力したい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪時は本人とご家族の潤滑油になるよう職員は心掛けている。		来訪時にはできるだけ長い時間過ごしていただくために一緒に食事していただいたり行事参加を誘っているが、家族と共に外出・外泊して過ごされることによって思い出作りをされるなど家族の支援も心掛けていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や、自宅に外出する機会を持つように心がけている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	KさんとTさんは馴染みの関係が築けているので隣同士の席にしたり2人で外出や外食したりと働きかけている。SさんにUさんが食事介助してくれる場面作り等入居者同士の支えあう関係作り心にかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	この1年間は退去者はないが、入院や亡くなったときは訪問したり電話で連絡する事は継続していきたい。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望がある方にはできるだけ自宅に同行し安心していただいている。強引な家事参加を促さず利用者本位に対応している。意思の伝達が困難な方は日々の表情や様子などを観察し判断している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との会話の中から生活歴を収集出来るように会話するよう心掛けている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の生活リズムに合わせてスタッフ全員でアセスメントをし、出来ることに着目し本人が安心して暮らす事が出来るように場面作りに心掛けている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ全員によるアセスメントを作成しプランに反映している。課題とケアのあり方についてはミーティングや随時話し合い検討している。担当者会議で情報交換し計画立案に反映するように心掛けている。理解できる方には本人と話し合い納得を得て立案している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎に随時担当者会議やフロアミーティングで見直しが出来ている。		今後は随時プランの見直しをし、変更していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	デューリー記録・業務日誌・申し送りノートを職員は記録、実践している。状態変化や、注意が必要な時は口頭での申し送りの他、記述を行っている。またそれらの記録をもとに介護計画の見直しなどに活かしている。		記録の仕方をスタッフが分かりやすく、実践に活かせるように今後も検討していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が何時来られても、利用者と気持ちよく安心して過ごしていただくためにお茶や食事を勧めるようにしている。又、帰宅願望が強いときは出来るだけ同行し落ち着いていただくようにしている。		家族の面会が増えてきているので来られた家族が心地よく過ごせる雰囲気作りを今後も心掛けていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の消防訓練・運営推進委員会イベント時の声かけで参加を促している。地元中学生の定期的な演奏や、地元のハーモニカ奏者の方、夏祭りの際は地域の方の出し物などボランティアの協力受け入れに力を入れている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要時、情報交換、相談を行い、ブロック研修(他グループホームとの勉強会)で事例検討や学習会を行っている。		他のサービス利用に関しては必要性があれば応じて行くように心掛けたい
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在対象者がいないので対象者があれば地域包括支援センターへ相談していきたい。		市に相談し今後運営推進会議にも包括支援センターの専門職の方にも参加していただくよう声かけを行なっていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されるかかりつけ医は継続されている。受診の際は家族にて送迎を行ってもらっており、家族からの要望があれば同伴等の対応をしている。お互いにその時、情報交換している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	個々のかかりつけ医に必要時に応じ随時、相談、助言をいただくようにしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当事業所にも看護師が職員として在籍しており、協力医療機関である森の里クリニックの看護師が定期的にホームを来所することにより、連絡を密にし、緊急時に対応出来るようにしている。		健康管理や、受診情報を家族に伝えていけるよう努めていきたい
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ここ1年はないが過去にそういう場合は本人が安心されるよう面会等行い早期退院に関しては、主治医、家族と連携を取り対応した。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアに関しては家族から要望があれば受け入れるようにしているが具体的な検討は今はない。		重度化に伴う医師作成書を作成しホームが出来る内容を明記し家族と相談していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期については、機会があるごとに家族にお話ししている、勉強会や専門書にて学びを深めるように心掛けている。また急変時は速やかな対応が出来るように主治医と連絡を取っている。		職員が安心して終末期の対応が出来るようにその場に応じた勉強会を行っていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在対象者は居ないが対象者がいれば情報公開など連絡を密に取っていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉遣いに気をつけ、本人との関係、場面、反応によってその時に応じたこえかけをするようにしている。ホーム便りなどで写真を掲載していることは了解を得ている。個人情報を記載した文書は持ち帰らないなど慎重な取り扱いを心がけている。</p>	<p>今後シュレッダーの購入も検討していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>食事やおやつの際は、食べたいものをなるべく利用者に聞いている。自分の意志が伝わりにくい人にはそういう場面作りを心掛けている。衣類に関しては自己決定できるような場面作りを心掛けている。</p>	<p>今後も利用者の出来ること出来ないことを見極め本人のペースに合わせた支援を心掛けていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はせずその時に応じた支援を心掛けている。その人らしい暮らしが営めるように利用者に合わせて支援を行っている。外出希望等あればなるべく早く対応するように心掛けている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>出来る人には衣服の選択をしてもらい、出来ない人にはその場に応じた衣服の選択を職員でしている。理容に関しては行きつけがある方は家族が同伴され、そうでないかたは家族や利用者の希望で移動美容室をご利用いただいている。</p>	<p>そのひとらしい生活とは何なのか勉強会や事例など通じて学びを深めていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>面会時に家族様に食事を勧め一緒に食べていただいたり、肉嫌いの方は魚を提供し、望まれる方は個別に嗜好品の提供している。利用者の能力に合わせた材料選び、配膳、皮むき、盛り付け、後片付けなどおこなってもらっている。ホームには菜園があり食材となっている。食事が1日の活力の源になるような支援を心掛けている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>望まれる利用者には要望に応じた物を提供するよう心掛けている。可能なときは一緒に買い物にも出かけるよう心掛けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その人に合った時間にトイレ誘導している。不潔行為、放尿・排便がないようにサインを見逃さないように心がけている。排便チェック表をつけ医師と連携を取りながら排便コントロールに努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	場面作りを心掛け、楽しめる場面作りを行ないなるべく楽しめるように心がけている。(ゆず湯等)入浴の際、(温泉へ行きましょう・お湯があふれてもったいない・一番風呂ですよ等)声かけを工夫するよう心掛けている。一番風呂にこだわりある方おられ極力希望に添っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の希望や体調に合わせて日中でも各居室で横になることが出来る。就寝時間を決めずその人の希望に添うよう心がけている。休まれるまで傍で添い寝をしたり安心されるよう心掛けている。共有スペースには休めるようにソファ・椅子を配置している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮していただくために、お願いできそうな仕事を促し感謝の言葉「ありがとうございます」と必ず声掛する様に心がけている。花の水やり、買い物、食材の皮むき、だご汁作り、ぬり絵などしていただくことで張り合いのある一日となるように心がけている。また場面を変えるため気晴らしに畑や洗濯物干しにお誘いするよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前外部評価でアドバイスを受け、直ぐに試みたがご家族、利用者の希望がないため支援していない。外出などの際は、職員が代行し支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回は協力医療機関のクリニックへ全員出かけている。その他に行事等で月に一回は戸外に出られるよう支援助に努めている。季節、気候に応じて外出支援に心掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行楽地(猿回し劇場や・動物園・菖蒲見学・植木市・コスモス見学・ココファーム等)出来る限り思いで作りが出来るよう外出支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合は家族と直接話して貰うなどの支援をしている。手紙や葉書などは混乱されないよう工夫し、力が発揮できるよう支援するよう心掛けている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも訪問可能である、訪問時はお茶、食事を提供している。他の利用者に気兼ねなく過ごしていただくため居室を使っていただいたり、家族より希望あれば家事参加もしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常介護の中で身体拘束については理解を深めるように努力している。言葉による否定的な対応も、スタッフ間でその都度注意するよう心がけている。		今後も安全と拘束の観点から理解を深めるように勉強会を行ない意識向上に努めていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に玄関以外は鍵を掛けない。(外部進入を防ぐため) 異食行為がある利用者がいるため異食の可能性のある物が置いてある職員室には家族の同意を得て施錠する場合もある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定時に利用者の所在は把握している。チェックシートに所在、様子の記入を行なって活用している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食行為のある可能性がある方の部屋には飴や異食に繋がる物を置かないよう心掛けている。経口摂取などで害がある物は目に付かない場所に収納している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐための対応策を講じてきた。(ガスコンロロック確認・衣類チェックシート・服薬確認シート等)週1回の勉強会でヒヤリハット・事故報告などの事例発表し職員で原因・対応策など検討している。またグループ内にリスク委員会があり定時に報告、情報を共有し知識を深め事故予防に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署に依頼して(防火訓練の際)応急手当、初期対応の指導を受けた。グループ内で誤薬、嚔下障害、転倒、離脱など事例発生時に対応策を検討し情報を共有するようにしている。各フロアーには緊急時対応マニュアルがあり何時でも見れるようにしている。		定期の防火訓練の際には救命救急法などの訓練は継続して受けるようにしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に依頼して(防火訓練の際)応急手当、初期対応の指導を受けた。施設が2階、3階にあり火災が一番恐れるところで火元の管理には細心の注意をしている。		運営推進委員会などを利用し、今後、地域の方に災害時協力していただけるよう働きかけていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時など具体的に説明し理解を求めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は利用者の普段の状況を把握している。バイタルチェックを毎日行い体調に変化の有る際はクリニックドクターに連絡し指示をもらっている。場合によっては家族に連絡、相談し受診に繋げている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人服薬明細を各フロアーに配置しており個人の服薬内容が確認出来るようになっている。服薬の際には、手渡しし確実な服薬を確認している。薬の変更や追加がある場合は家族に報告し、本人状態変化がある場合は記録し協力医療機関のクリニック看護師と連携を図っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ乳製品や食材を取り入れ工夫して提供している(牛乳・ヨーグルト・プルーン等)、家事参加などで身体を動かす機会を適度に設けるよう心掛けている(徘徊なども運動と捉えている)利用者によっては腹部マッサージなど施行。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	こまめな口腔清拭が出来ないため食事のあとの水分補給に努めている。今後昼間の口腔ケアを徹底していきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の摂取量はチェックシートに記録している。お茶を利用者が飲めるように設置したり、利用者が好きな飲み物を勧め、水分補給に努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内のグループホームに健康委員会を設けており早期に連絡を取り合っている。又各ユニットにマニュアルを設置している。勉強会で感染症予防対策の勉強に取り組んでいる。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い置きをせずこまめな買い物を心掛けている。手洗いの励行・乾燥機の使用・フキンまな板などはハイターで除菌、清潔を心掛けている。冷蔵庫内の鮮度チェックや肉・魚類はすぐ冷凍するよう心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外部評価でアドバイスを受け、直ぐに母子会の協力を得て玄関横の花壇に花を植え、玄関先にプランターを置いた。玄関内は季節感のある工夫を心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をスタッフが自宅より持参し生けている。時々利用者に生けてもらうように働きかけている。居室内にも花を置くように心掛けている(仏壇も)スタッフはあわただしき動きや大声、テレビの音量、CDの音量に注意するよう心掛けている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席の配置を工夫している。それぞれに居心地の良い場所で過ごされているためトラブルにならないように心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が主になって居室作りされている。混乱や危険防止の必要がある場合は家族と相談し工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	感染症予防の上からも十分な換気を行い温度調節にも心掛けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの工夫、庭や畑に通じるスロープの設置。利用者に合わせて物干し竿の高さにしたり干しやすい工夫をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立した生活が出来るよう場面作りに工夫して混乱や失敗を防ぐように支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	夏は全居室のベランダに朝顔を置き、冬はその人の力に合わせて鉢物を置いて水やり等お世話をされるように場面作りしている。畑には季節の野菜を植え、収穫したり外の景色や空気を何時でも楽しめるように椅子やテーブルを庭に設置している。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念に基づいてその人の今を大切に家族との連携を取り介護が出来ている。
 定期的な勉強会（週1回）を通し介護の質の向上を図っている。
 家族会の介護に対する感謝の持ちが感謝祭（収穫祭）となり、スタッフも感謝している。
 入居者の方の居心地の良い雰囲気作りや場面作り、気付きなどに力を入れている。
 なるべく手作りのおやつや旬の食材を使って季節感を味わっていただけるよう心掛けている。
 家族の方の畑作業やイベントの参加利率が良く協力的である。
 利用者の方々が自分の時間をもってそれぞれ自由に生活をされている。